

くじゅう地区管理運営協議会

平成 28 年度 活動報告



阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター

目次

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務	
1. 長者原ビジターセンター利用状況	
(1) 入館者数	2
(2) ハイビジョン映像上映回数	3
2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業	4
(1) 利用案内と国際化	4
(2) 館内展示および自然ふれあい事業	5
① 常設展示	5
② 企画展示	8
③ 自然ふれあい事業	11
a) タデ原の自然観察会	11
b) タデ原のミニガイドウォーク及び 国立公園レクチャー	12
c) 視察研修対応	13
④ 館内維持管理業務	13
II. 教育・普及啓発活動	
1. 普及啓発活動	
(1) 各種イベント	14
(2) 広報活動	17
2. 環境教育活動	22
III. 自然環境保全・調査活動	
1. 自然環境保全活動	26
2. 調査活動	27
IV. 登山道等管理活動	
1. 登山道保全活動	28
2. 長者原周辺の美化清掃活動	28
(1) 清掃業務	28
(2) 園地管理業務等	29
(3) タデ原湿原木道の保守業務	29
V. その他	
1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度創設	30
2. 職員研修実績	31
3. 新聞掲載記事	32
4. 地域の概要	38
5. 運営体制	39

I. 長者原ビジターセンター等運営管理業務

1. 長者原ビジターセンター利用状況

(1) 入館者数

- ・平成 28 年度の来館者数は、103,019 人であった（前年度比：約 23%減）。
- ・職員手作り展示の「ハンズ・オンコーナー」などの展示活動を充実させたが、4 月に発生した熊本地震の影響で、4 月～6 月までの来館者数が激減した。（前年度比：52%減）7、8 月の夏休み期間中は九州復興割の利用があったためか、来館者数は例年並みになったものの、9、10 月は風評被害のため、来館者数が伸び悩んだ（前年度比：28%減）。
- ・平成 26 年度のバリューアップ事業による、国際化対応職員の配置を継続し、英語を中心とした多言語対応を実施。手作り展示も英語併記や英語解説シートを設置するなど、海外の人も楽しめるよう工夫した。

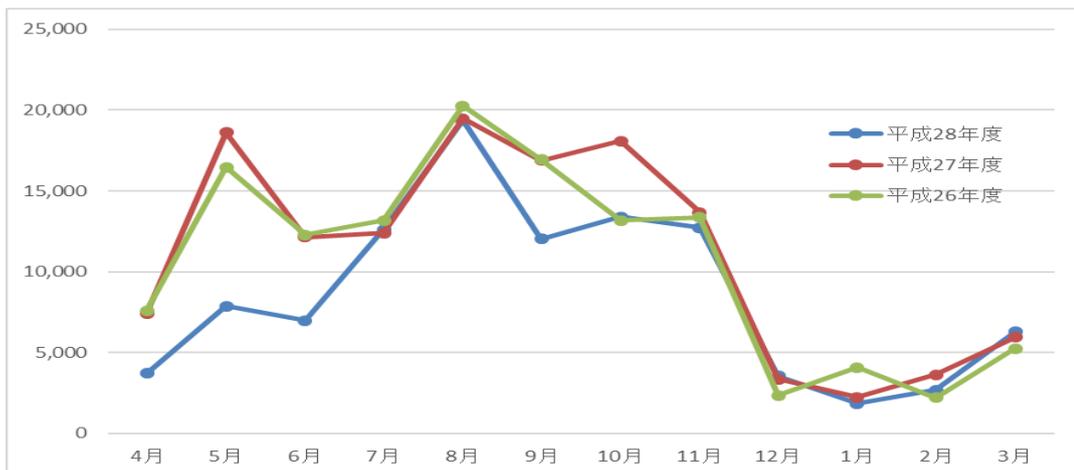


館内利用案内の様子

来館者数一覧表（平成 26～28 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成28年度	3,708	7,881	6,992	12,611	19,363	12,016	13,380	12,734	3,549	1,839	2,675	6,271	103,019
平成27年度	7,416	18,599	12,133	12,397	19,477	16,893	18,086	13,672	3,355	2,227	3,623	5,953	133,831
平成26年度	7,605	16,461	12,274	13,160	20,256	16,928	13,162	13,357	2,337	4,092	2,196	5,249	127,077

来館者数推移（平成 26～28 年度）



(2) ハイビジョン映像上映回数

- ・平成 28 年度ハイビジョン映像上映回数は 799 回（前年度比約 23%減）、延べ人数 6,196 人であった（前年度比：約 37%減）。
- ・多言語でも上映可能であることを、職員が直接外国人利用者に対して、積極的に働きかけたが、4月に発生した熊本地震の影響で、来館者そのものが激減したため、上映回数も減少した。

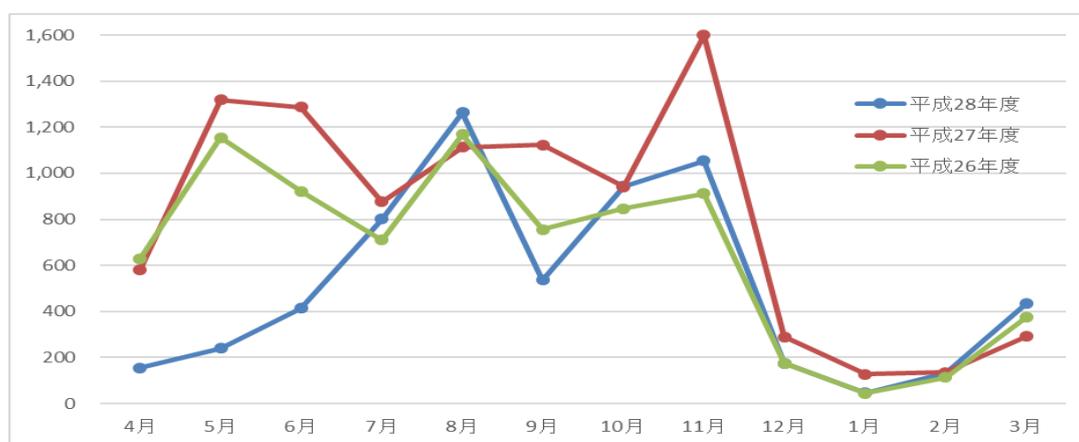


映像の多言語字幕付き上映

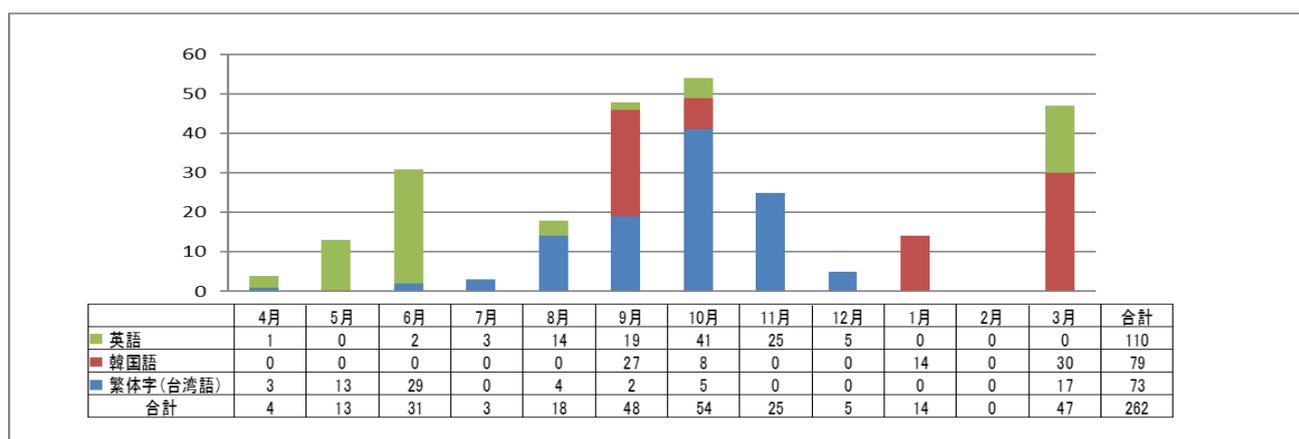
ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成 26～28 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成28年度	155	240	414	802	1,264	537	944	1,054	175	46	132	433	6,196
平成27年度	582	1,318	1,286	876	1,114	1,123	942	1,598	290	127	135	292	9,683
平成26年度	630	1,155	921	711	1,168	755	847	912	175	45	113	375	7,807

ハイビジョン映像上映人数推移（平成 26～28 年度）



外国語上映人数内訳（平成 28 年度）



2. 利用案内と展示・自然ふれあい事業

(1) 利用案内と国際化

- ・長者原ビジターセンターカウンターにて、国立公園の利用案内および自然情報等の提供を行った。
- ・英語での利用案内・解説ができる自然解説員を、週3日以上配置し、利用案内の国際化に努めた。受付カウンターに英語・韓国語での対応ができることを表示した。
- ・英語で登山道案内をするための、会話式のわかりやすいマニュアルや、ミニガイドウォークをするためのマニュアルも作成した。



受付カウンターでの利用案内の様子



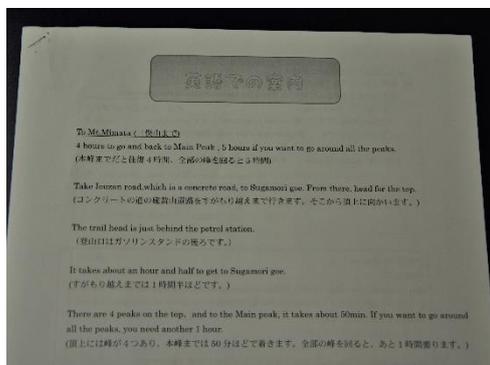
登山情報および、くじゅう連山自然情報



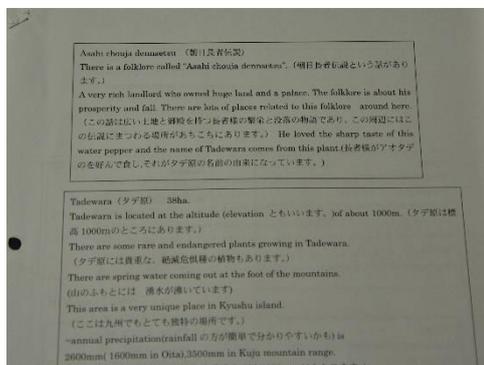
外国人に対する利用案内の様子



多言語対応が可能なことを受付に掲示



登山道案内の英語マニュアル



ミニガイドウォークの英語マニュアル

(2) 館内展示および自然ふれあい事業

① 常設展示

・各コーナーを、下記の表記載の頻度で更新した。既設展示では、英語・韓国語・中国語（簡体字）の解説シートが設置されたことから、海外からの利用者が常設展示を楽しめるようになっている。また、職員手作りの展示や館内解説を英語化し、展示・案内の国際化に努めた。

展示内容		展示箇所	頻度
旬の見どころ紹介ボード	写真①	2階入口	月1回
お知らせコーナー(自然観察会紹介)	写真②	2階入口付近	年4回
くじゅうの自然写真館	写真③	2階受付付近	月2回
登山のルールとマナー	写真④	2階受付付近	年4回
観光情報コーナー	写真⑤	2階受付付近	年1回
展望コーナー	写真⑥	2階展望スペース	随時
くじゅう連山自然情報		2階受付付近	随時
ハンズオンコーナー	写真⑦	1階壁面付近	月1階
ワークテーブル	写真⑧	1階及び2階	年4回
くじゅう連山衛星写真	写真⑨	1階中央部	なし
くじゅう植物図録	写真⑩	1階野焼きコーナー横	月2回
タデ原フィールドガイド	写真⑪	1階入口付近	随時
キッズコーナー	写真⑫	1階階段横	随時
くじゅうの自然を支える活動	写真⑬	階段ボード	年4回
モニタリングサイト1000里地調査紹介	写真⑭	階段ボード	月1回
企画展示		1階及び2階	年4回

ビジターセンター2階

・2階はメイン入口となっており、来館者の出入りも多いため、自然に関する最新情報（旬の見どころや国立公園・登山道情報）や、展望を利用した休憩スペースを設置している。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナー展示や、周辺地域の観光情報等も展示している。



① 旬の見どころ紹介ボード



② お知らせコーナー



③くじゅうの自然写真館



④登山のルールとマナー



⑤ 観光情報コーナー

国立公園周辺の見どころ等を、カケスマップ（周辺観光マップ）等を利用して掲示した。



⑥ 展望コーナー

くじゅうに関する情報閲覧および休憩等ができるように、書籍や登山専門誌、ソファ等を設置した。

デジタルセンター1階

・1階は、滞在時間が十分にある来館者が多く、タデ原湿原木道やくじゅう連山登山道につながる出入口となっているため、タデ原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示した。



⑦ ハンズ・オンコーナー

実物に触って試みることが出来るハンズオンコーナー。くじゅうに生息する動物の剥製や、植物の種、実物などを展示した。



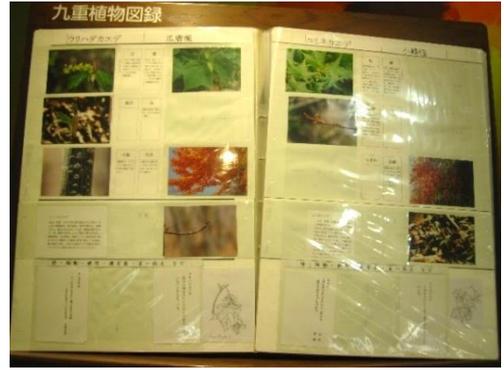
⑧ ワークテーブル

来館者参加型の展示。葉っぱの写し絵や、紅葉、くじゅうの星の折り紙、切り絵などの体験を通して自然を楽しむコーナー。



⑨ くじゅう連山衛星写真

くじゅう連山の衛星写真の展示では、利用者が上に乗って場所を確認できるほか、登山ルートや見どころ、温泉などはコンピュータで検索ができる。



⑩ くじゅうの植物図録

くじゅうのボランティア団体、九重の自然を守る会が作成した、植物の芽吹きから実までの図録を、職員が季節ごとに入れ替えて展示した。



⑪ タデ原フィールドガイド

今見られる植物や動物などを、より楽しんでもらうため、職員手づくりの解説付きで紹介した。



⑫ キッズコーナー

自然関係の絵本やパズルなどを置き、子どもや親子連れがゆっくり遊べるコーナーにした。

階段

・タデ原湿原入口やトイレ利用のための動線となっており、多くの来館者が自然と目にする場所であることから、くじゅうで行われている自然保護などの活動を普及啓発する内容を展示した。



⑬ くじゅうの自然を支える活動

登山道整備や外来種駆除活動など、くじゅう連山で行われた自然保護活動を紹介した。



⑭ モニタリングサイト 1000

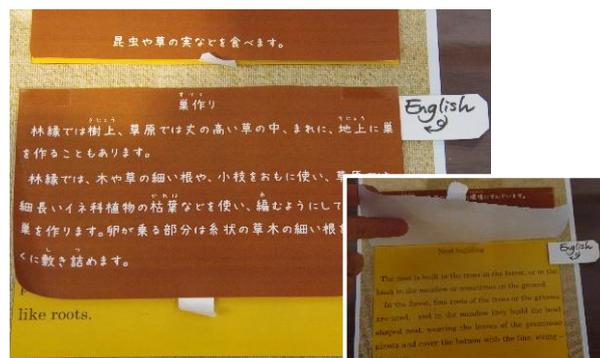
九重の自然を守る会がタデ原で行っている植物モニタリング調査の様子を紹介した。

展示の国際化対応

- ・手づくり展示については、英語での解説を加え、外国人対応に努めた。



英語併記のハンズオンコーナー



英語併記の展示

② 企画展示

「野焼き」

実施期間：平成 28 年月 4 月～平成 28 年 6 月



タデ原が野焼きの後で真っ黒の時期に、野焼きのことを紹介した企画展示。野焼きの意義や、方法について解説したほか、昔の暮らしとの関係なども説明している。野焼き後のタデ原で開花した植物を見つけるセルフシートを置き、記入後に受付でシールをプレゼントする企画を行った。

「お助け自由研究」

実施期間：平成 28 年 7 月～平成 28 年 9 月



夏休みで子どもの来館者が増える時期に、夏休みの自由研究のお手伝いになるようにと企画したもの。自由研究チャートで自分に合った研究テーマを見つけてもらい、そのテーマについての研究方法を解説した展示と解説シートを参考に、自由研究を行うことが出来る企画。夏休みに入ると、親子連れで展示を見に来る来館者が多く見られ、特に、「水生生物について調べよう」というテーマでの水槽展示は、子どもたちの注目を集めていた。

「トイレ de 写真館コンテスト記念展示」

実施期間：平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月



昨年同様、平成 28 年度の「トイレ de 写真館コンテスト」に応募された作品すべてを、館内で紹介した写真展。「トイレ de 写真館」では紹介しきれなかった多数の応募作品について、来館者の多い 2 階の動線上に有孔ボードを設置し、展示を行うことで、多くの来館者に見てもらうことができた。

「秋の夜長に。おともの一冊。」

実施期間：平成 28 年 10 月～平成 28 年 12 月



秋といえば、読書。ビジターセンタースタッフのお勧めの書籍をコメント付きで紹介した企画。自然に興味をわくきっかけは、人それぞれであり、図書からの影響も大きい。様々な分野や観点から自然に興味をもってもらえるよう、また一方でそれぞれの分野を深めていけるような図書を紹介した。図書を閲覧できるイスを置いたところ、本を手に取り、ゆっくりと閲覧する来館者の姿も見られた。

「生物多様性ってな～に？」

実施期間：平成 28 年 12 月～平成 29 年 3 月



生物多様性について、普及啓発をすることを目的に実施した企画展示。生物多様性とは何かをパネルで紹介し、生物多様性の保全のためにできることのヒントを掲示した。その他、くじゅう地域の伝統野菜を実物展示して、遺伝子の多様性について解説したり、廃油を使った石鹼やアクリルたわしなどの実物展示も行い、暮らしの中でできることも紹介した。地域の生物多様性を紹介する写真展も行った。

③ 自然ふれあい事業

a) タデ原の自然観察会

- ・平成 28 年度の自然観察会開催回数は 51 回（前年度比：11%減）、参加者数は、延べ 446 人。（前年度比：約 39%減）
- ・九重の自然を守る会の会員や、くじゅう地区パークボランティアがボランティアガイドを行う。
- ・今年は、4月に発生した熊本地震の影響で、参加者数が激減した。
- ・団体予約は、減少傾向にあることから、今後は、定例の観察会への個人利用者を中心に、参加を呼びかける方法を考えていく必要がある。

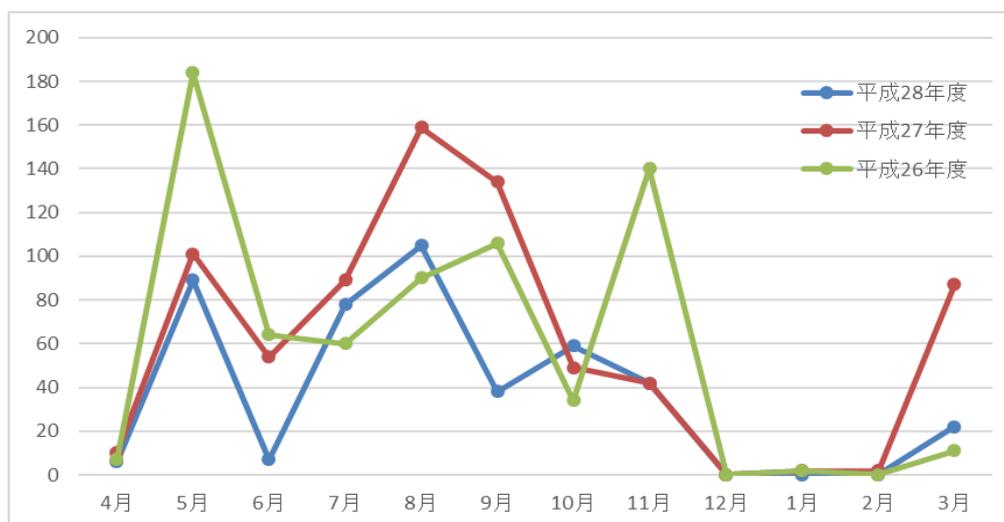


自然観察会の様子

自然観察会参加者数一覧（平成 26～28 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成28年度	6	89	7	78	105	38	59	42	0	0	0	22	446
平成27年度	10	101	54	89	159	134	49	42	0	2	2	87	729
平成26年度	7	184	64	60	90	106	34	140	0	2	0	11	698

自然観察会参加者数推移（平成 26～28 年度）



b) タデ原のミニガイドウォーク及び国立公園レクチャー

タデ原のミニガイドウォーク

- ・タデ原のミニガイドウォークとは、ビジターセンター職員がタデ原を 30 分で案内するもの。参加費は 100 円。ビジターセンター開館日の毎日 11：00～と 14：00～の 2 回開催。
- ・タデ原の自然解説（ミニガイドウォーク）の開催数は、30 回、利用者延べ 127 人。

国立公園レクチャー

- ・国立公園レクチャーとは、学校や団体に対し、ビジターセンター職員が国立公園やタデ原について解説を行うもの。参加人数等に応じて、30 分～2 時間程度のレクチャーやタデ原の案内を行っている。
- ・国立公園レクチャーの受け入れ回数は、13 回、利用者延べ 577 人
- ・団体での国立公園レクチャーの需要があることから、今後も利用を促進していきたい。



タデ原のミニガイドウォークの様子



国立公園レクチャーの様子



留学生向けの英語での国立公園レクチャーの様子



平成 28 年度 国立公園レクチャー一覧

日にち	曜日	概要	参加者数
5月7日	土	由布高校	110
5月20日	金	豊後大野中学校	22
7月5日	火	南小国中学校	37
7月24日	日	多良木町若草会	48
8月29日	月	日田市大山小学校	22
10月15日	土	南山田公民館	29
10月15日	土	大分大学	156
10月28日	金	久留米大学	7
11月8日	火	九州産業大学	30
2月26日	日	わくわく実験室ファミラボ	53
3月2日	木	九十九島の会	36
3月20日	月	大分弁護士会	11
3月24日	金	台湾教育旅行校長会	16
合計			577

c) 視察研修対応

- ・行政機関をはじめとする関係者の視察等の受け入れを随時行い、職員が館内展示や阿蘇くじゅう国立公園、タデ原の自然環境などについて解説を行った。
- ・特に、長者原ビジターセンターの利用の国際化に関する視察が多かった。
- ・平成 28 年度の受け入れ回数は 7 回、利用者数は延べ 60 人。



ドイツハノーバー大学視察



環境省副大臣視察

表 6. 平成 28 年度視察研修受け入れ事業一覧

日にち	曜日	概要	参加者数
8月12日	金	ドイツハノーバー大学	5
8月24日	水	綾町社会福祉協議会	24
9月7日	水	九十九島ビジターセンター	3
2月14日	火	環境省自然環境局	3
2月26日	日	江戸川大学	5
3月3日	金	環境省副大臣視察	15
3月7日	火	東海大学	5
合計			60

④ 館内維持管理業務

- ・ビジターセンター館内は、閉館後にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃を毎日実施した。
- ・年 1 回、清掃業者による特別清掃（ワックスがけ等）を実施した。



日常清掃の様子



特別清掃の様子

II. 教育・普及啓発活動

1. 普及啓発活動

(1) 各種イベント

もっと楽しい山歩き

開催日時：第1回目 7月10日(土)「初めての山歩き」

第2回目 8月27日(土)「登山地図読みへの入り口」

第3回目 9月10日(土)「出会いを撮る。」

場所：長者原ビジターセンター1階会議室及びタデ原湿原周辺

- ・登山の基本や地図読み、国立公園のレクチャーなどの机上講座と、実際に長者原周辺を歩き実戦形式のフィールドワークを織り交ぜたイベントを行った。
- ・このような、初心者向けの登山者イベントを通じ、登山に対する意識を高めてもらい、国立公園の利用に対する普及啓発を目的として、今年度初めて行った。
- ・実施回数は3回、参加者数は延べ37名（内訳：第1回目4名、第2回目18名、第3回目15名）。
- ・参加者の感想には、机上講座を受けた後、その場ですぐに実践できたところが良かった、との声が多くあった。また、参加者同士で交流する姿や、職員と参加者のコミュニケーションの場となり、センターの利用促進に繋がった。
- ・今後も積極的に、参加者体験型のイベントを企画していきたい。



イベントの様子

トイレ de 写真館 コンテスト

募集期間：平成 28 年 6 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日

展示期間：平成 28 年 10 月 1 日～現在

- ・平成 25 年度から「トイレ de 写真館」を開始し、くじゅう連山の美しい風景等の写真を公衆トイレに展示することで、トイレ利用者の意識向上を図っている。
- ・今年度は昨年度に引き続き、展示写真の公募を行った。今年の応募数は 47 点。審査を行い、3 点の入選作品と優秀作品 6 点をトイレ de 写真館に展示した。
- ・入選者には、記念品を贈呈した。
- ・今年度も昨年に引き続き、館内で全応募作品を展示し、多くの来館者が見る展示となっている。



トイレ de 写真館展示の様子



トイレ de 写真館館内展示の様子

「山の日」制定記念イベント くじゅうフェス

開催日時：平成 28 年 8 月 11 日（木） 10：30～16：00

場所：長者原園地

- ・「山の日」制定の記念イベント「くじゅうフェス」（主催：くじゅうフェス 2016 実行委員会）に出展し、顔はめパネルやジェットシューター体験、動物の剥製展示や足跡の色塗りゲームなどの体験型展示を行った。
- ・展示ブースを訪れた子供たちの多くが、動物の足跡探しゲームやジェットシューター体験を楽しんでいた。
- ・展示ブースの正面に動物の剥製展示をしたので、多くの人が足をとめ、参加してくれた。



ビジターセンター展示ブースの様子



足跡探しゲームの様子

第22回 九重ふるさと祭り

開催日時：平成28年10月22日（土）・23日（日） 10：00～16：00

場所：保健福祉センター前広場周辺

- ・「九重ふるさと祭り」（九重町主催）に初めてブース出展を行った。
- ・展示ブースでは、動物の剥製展示や、ドングリを使った工作などの体験型展示と併せて、当協議会の活動などをパネルで紹介した。
- ・町主催のイベントであるため、町内住民の参加者が多く、町内住民に当協議会の活動について知ってもらう良い機会となった。



パネル展示の様子



体験型展示の様子

牧ノ戸峠 登山ミニレクチャー

- ・公園利用者への適切な利用促進の一環として、くじゅう連山最大の登山口として利用されている、牧ノ戸峠登山口において、「登山ミニレクチャー」を実施し、登山者に対する公園利用マナーの普及啓発を行った。また、登山届の提出もあわせて呼びかけ、登山届の書き方等の指導を行った。
- ・平成28年度は、ミヤマキリシマ繁忙期（6月1回）、紅葉繁忙期（10月1回）の計2回実施した。
- ・ビジターセンター職員のほか、環境省くじゅう自然保護官事務所、大分西部森林管理署、玖珠警察署、大分県、九重町、九重ふるさと自然学校、くじゅうネイチャーガイドクラブ等の協力があり、各回4～7名体制で呼びかけを行うことができた。
- ・登山届提出を呼びかけることにより、登山計画の不備や、登山地図・ストックキャップ等の準備不足などについてアドバイスをすることができ、安全・適切な登山マナーの認識の向上につながっている。



レクチャーの様子

(2) 広報活動

① くじゅうファンクラブ（くじゅう地区管理運営協議会）ホームページ 立ち上げ

- ・今年度より、くじゅう地区管理運営協議会の通称名を「くじゅうファンクラブ」とし、より多くの人に活動紹介等を行う趣旨で、ホームページの立ち上げを行った。（平成 28 年 9 月 30 日）
- ・ホームページでは、活動紹介の他、くじゅうの自然や登山道の紹介など、様々な情報を得ることができる。また、英語のページも作成し、外国人への利用促進に努めた。



ホームページトップ画像

② 長者原ビジターセンター フェイスブック

平成 28 年度更新回数：123 回

- ・ページの購読者（「いいね！」の数）は 3147 件（昨年度より 855 件増）。購読者数は、全国のビジターセンターのフェイスブックページの中でトップクラス。最新の自然情報をリアルタイムに提供できるよう努めたことにより、購読者が増加している。
- ・外国人利用者に向けた情報発信として、投稿記事について英語表記を行ったことにより、外国人からの反応も見られた。



フェイスブック掲載の様子

③「長者原だより」の発行

・長者原だよりは、くじゅうの自然をより深く理解してもらうことを目的に、年4回発行。センター内で配布するほか、くじゅう地区管理運営協議会の各会員施設でも配布。

長者原ビジターセンターからお届けする

長者原だより

TAKE FREE!



くじゅうのために知る
くじゅうの一年

2016 初夏号

ミヤマキリシマ(ツツジ科)：
くじゅうの初夏を代表する花。ミヤマキリシマは、くじゅう連山のさまざまな場所で見て頂くことができます。暑くはじまりがみつけて頂くのも、ほんとはくじゅうの初夏にお気に入りの花を見つけて頂くのも楽しいかも！

長者原ビジターセンター イベント情報

参加してみませんか？

あなただけのとおきの「くじゅう」を紹介するチャンス！
Trade写真館コンテスト / 個人向け

長者原地区の2つの公園、トイレは、くじゅうの自然にまつわる写真で飾られた「トイレ写真館」を開催中！ここに飾られている写真は、くじゅうを訪れた方から応募いただいた中から選ばれた作品です。今年も、この写真コンテストの開催が楽しみです。お楽しみに。くじゅうを、多くの方知ってもらうチャンス！入選者には、長者原展望台の他、オリジナルグッズ2000円相当をプレゼントし、入選作品は、長者原ビジターセンター館内で展示予定です！

学んだことを、その日に実践！参加者同士での交流も楽しみましょう！
もっと楽しい山歩き / 個人向け

くじゅう地域を心なガイドをいり、くじゅうネイチャーガイドクラブの協力のもと、長者原ビジターセンター初めての、ミニ登山イベントを開催します！各テーマに沿った内容の登山講座を体験。みんなが楽しく登山の知識を深めながら、登山の楽しさを学ぶ機会もたくさんあります。参加者の方には、記念品をプレゼント！

第1回 7/9 (土) 「初めての山歩き ～これぞあなたも山デビュー～」
場所：長者原～雨ヶ池 (予定)

第2回 8/27 (土) 「登山地獄山への入り口～これぞあなたも登山が読める～」
場所：指山自然観察路 (予定)

第3回 9/10 (土) 「出会いを語る。～山歩きの写真～」
場所：長者原自然観察路 (予定) 特別講師：齋藤貴志さん

応募方法はコチラ

- 写真のテーマ：私のくじゅう自慢！くじゅうのココロを捉えて！～
- 応募期間：2016年6月1日～6月31日
- 応募方法：①印刷済みくじゅう国立公園のくじゅう地域で撮影したもの、またそれに準ずるもの。写真データであり、画像のサイズは2MB以上 ②電源充電で撮影したもの ③写真内の人物が特定できない場合は、再投稿の了承を求めています
- 応募方法：写真メールにて送信 (持ち込み写真は受け付けません) メールには、氏名・住所・電話番号・連絡のとれるe-mailアドレス・公表名 (ハンドルネーム) ・写真のタイトルを必ず記載すること。応募費：1人500円
- 申込先：長者原ビジターセンター「Trade写真館」係 chojabaravisitor@yahoo.co.jp

年間で700人以上の参加者がいる、人気の定例イベント！
タデ原の自然観察会 / 個人・団体向け

九重の自然を守る会の会員が、タデ原展望台から遠くまで車で、約2時間のコースで、ゆくりゆくりと歩いて、自然の美しさを堪能します。旬の山野草の観察だけでなく、地域の歴史や文化、最近の自然環境の話題など、盛りだくさん。ガイドさんによる、話の面白さ、参加するに…?

- 日程：5～7月は毎週日曜日と祝日 10:00～12:00 (約2時間)
- 参加費：無料。当日10時までにはタデ原センターへお越しください
- 予約：基本的には不要。雨天の場合、要予約。*にやむやみにキャンセルはお受けできません
- 参加費：無料。お気兼ねなくお申し込みください

短い時間でタデ原を満喫したい人におススメのイベント！
タデ原のミニガイドウォーク / 個人向け

長者原ビジターセンターの職員が、タデ原の木道約800mのコースを、毎年生きものや見どころを、ユツとと歩かせるお楽しみします。いつもはたどる道歩きだけの観察も、ちょっと違った観察になるかも！

参加するに…?

- 日程：毎月 11:00～14:00 (各30分程度) 都合により中止になることもあります。参加希望の方は事前にお問い合わせください。
- 定員：各10名 ●参加費：1人100円 (保険料込)

団体でくじゅうを訪れたときにオススメのプログラム！
阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー / 団体向け

学校などの団体向けプログラムとして、長者原ビジターセンターでは、阿蘇くじゅう国立公園やタデ原に関するレクチャーを、随時受け付けています。国立公園の雄大な自然、タデ原の成り立ちや特徴など、豊富な知識、賞賛を生かしての解説など、お楽しみいただけるプログラムをご用意しています！

申込方法はコチラ

- 日程：随時受付中。時間は30分～2時間程度。
- 予約：要予約。事前ににお問い合わせください。
- 参加費：無料。10人以上でもお受けできる場合もあります。お気兼ねなくお申し込みください。阿蘇くじゅう国立公園やタデ原に関するお楽しみプログラムをご用意しています。あらかじめご了承ください。また、このレクチャーでは、基本的にタデ原散策には同行いたしません (自由散策となります)。

長者原だより2016初夏号

発行元：くじゅう地区管理運営協議会
企画・編集：長者原ビジターセンター
印刷：くじゅう地区管理運営協議会
TEL: 0965-2025154
ホームページ：http://kyushu-np.jp/nature/kyojyabanu/

フェイスブックで最新の自然情報を提供しています！

Instagram: @kyojyabanu

Twitter: @kyojyabanu

Facebook: kyojyabanu

くじゅうの1年を知ろう!

野焼き

野焼きは、自然の季節の移り変わりを助ける大切な作業です。毎年8月、地域の住民がボランティア、消防や警察などが一斉に行っています。野焼きの目的は、燃やした草木を燃やして、地元の人の手で、草原の更新を、そこに生かす生きものを守るために、毎年野焼きを行っています。野焼きによって草原(畑)の環境が守られることにより、「くじゅう」がより豊かになります。野焼きは、自然の恵みを生かす大切な活動です。野焼きの魅力を伝えていくことにより、自然を大切にしようとする人々が増え、自然環境の保全に貢献していきます。

くじゅうの草原

くじゅうの草原は、毎年行われる野焼きによって、燃やした草木を燃やして、地元の人の手で、草原の更新を、そこに生かす生きものを守るために、毎年野焼きを行っています。野焼きによって草原(畑)の環境が守られることにより、「くじゅう」がより豊かになります。野焼きは、自然の恵みを生かす大切な活動です。野焼きの魅力を伝えていくことにより、自然を大切にしようとする人々が増え、自然環境の保全に貢献していきます。

くじゅうの山

くじゅうの山は、毎年行われる野焼きによって、燃やした草木を燃やして、地元の人の手で、草原の更新を、そこに生かす生きものを守るために、毎年野焼きを行っています。野焼きによって草原(畑)の環境が守られることにより、「くじゅう」がより豊かになります。野焼きは、自然の恵みを生かす大切な活動です。野焼きの魅力を伝えていくことにより、自然を大切にしようとする人々が増え、自然環境の保全に貢献していきます。

調査・自然観察会

自然を守るための活動は、実際に保護活動を行うだけでは足りません。たとえば、タデ原展望台や久住高原で行われている「くじゅうの自然観察会」は、自然環境の調査やモニタリングを行い、自然環境の保全に貢献しています。また、自然観察会を通して、くじゅうを訪れる人や、地域の子どもたちにくじゅうの自然や文化を知ってもらうことも、くじゅうの歴史とともに生きていくことにもつながります。自然環境の保全に貢献するための活動です。野焼きの魅力を伝えていくことにより、自然を大切にしようとする人々が増え、自然環境の保全に貢献していきます。

登山道整備活動

くじゅうの登山道整備活動は、さまざまな方が参加しています。整備した登山道は、雨によって土が流れてしまったり、木が倒れてしまったり、危険な箇所を直すために、登山道を整備する必要があります。また、その整備方法には、豊富な経験を持つ人の助けが必要になります。

くじゅうのために何をしよう?

●自然観察会に参加する
タデ原などで野焼きが行われている観察会に参加して、くじゅうの自然を知ろう！

●ガイド付き登山に参加する
ガイドと一緒に歩くことで、正しい登山道や、今まで知らなかった自然を知ることができます。

●自然体験活動に参加する
くじゅうの魅力は、自然と文化のつながりにあり、自然体験活動に参加することで、くじゅうの魅力をより深く知ることができます。

●ボランティア活動に参加する
くじゅうの魅力をボランティアで広げたい方は、参加の情報は長者原ビジターセンターへお問い合わせください。

長者原ビジターセンターからお届けする

長者原だより

TAKE FREE!



くじゅうの
秋がやってくる。

2016 秋号

くじゅうファンクラブ活動情報

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。

教育・普及啓発 自然環境保全・保護 登山・トレイル 登山道管理 林業管理

★平成28年5月31日まで、「くじゅう地区管理運営協議会」の連絡名称が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

登山イベント「もっと楽しい山歩き」 第2回・第3回開催しました!

「もっと楽しい山歩き」は、地図読みや持ち物など、正しい登山の知識を習得することを目的に開催しているイベントです。(運営協力くじゅうネイチャーガイドクラブ) 8月～9月にかけて、第2回目は、「登山地図読みへの入り口」これである地図が読める→をテーマに、読図方法を机上と実践で学び、筑紫山道で実践講習を行いました。第3回目は「下山の楽しみ」～山歩きの写真～というテーマのもと、写真の撮り方やポイントを、講師の育成者さんから教えていただきました。多くの方に参加いただき、ありがとうございました。



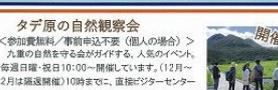
チームタデ原で キッズガイドを行いました!

平成27年度に、くじゅうで開催されたKOMOMOスクールをきっかけに、地元の子供たち自身で立ち上げ、タデ原を学び発信する、チームタデ原で、7月29日、8月19日の2日間、一般の方を対象に、タデ原のキッズガイドを行いました。この日に向けて、子供たち一人一生懸命タデ原の勉強をし、参加者に楽しく学んでもらえるように、クイズなどを作成してきました。一般参加者は、両日合わせて52名。タデ原産物の盛り合わせや、生きもの、魚の住んでいる川に住んでいるいりりの違いなど、詳しく解説していただきました。



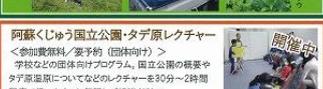
トイレ写真館コンテスト

長者原地区の2つの公衆トイレは、くじゅうの自然にまつわる写真ギャラリー「トイレ写真館」として、美しく利用されています。今年も「私のくじゅう自慢～くじゅうのトイレを見て～」として、6月1日～8月31日まで作品の募集を行い、44作品の応募がありました。コンテスト優秀作品は、10月1日より、長者原地区のトイレ写真館にて、掲示中です! 素晴らしい作品の数々、ぜひご覧ください!



MS&AD ラムサールサポーターズ オオハongoソウ駆除活動

タデ原湿原周辺では、国の「特定外来生物に指定されている、北米原産の水生植物オオハongoソウの生息が確認されており、湿原の生態系を保全するため、様々な団体が存在し、駆除活動を行っています。9月11日(日)は、三井住友海上火災保険(株)と、おおいコンシエール和風産業株式会社の大分支店などで構成する、ラムサールサポーターズ42名が、オオハongoソウの駆除活動を行いました。今回の取り組みは、前回は引き続き2回目となりました。九重の自然を守る会、九重ふるさと自然学校、九重町役場などが指導にあたりました。約1時間半の作業で、ゴミ袋25袋分、210mのオオハongoソウの駆除を行うことができました。参加してくださった皆様、ありがとうございました。



タデ原の自然観察会

＜参加費無料/事前申込不要(個人の場合)＞
九重の自然を守る会が主催する、人気のイベント。毎週日曜・祝日10:00～開催しています。(12月～2月は雨天開催)10時まで、直接ビジターセンターへお越しください。



くじゅうファンクラブよりお知らせ

ホームページが新しくできました!
くじゅうファンクラブのホームページが新しくなりました。最新の自然情報や、登山の楽しみ、くじゅうの自然についてなど、くじゅうファンクラブの魅力を、くじゅうファンクラブのホームページから発信していきます。ぜひご覧ください!
<http://www.kyujyuuclub.com/>

【お申し込みのご案内】
※本会は、公益財団法人九州自然環境保全協会に所属する団体です。
会費 500円
※お申し込みは、お申し込みフォームからお願いします。
お申し込みは、お申し込みフォームからお願いします。
お申し込みは、お申し込みフォームからお願いします。

01.タデ原湿原



秋のタデ原の見所はなんとと言っても、木道のまわり一面に広がるススキです。また、木道を抜けて霧の中の散策路に入ると、木々の紅葉を間近で楽しむことができます。タデ原から霧の散策路を一周するには、約1時間程度。曹殿、木道しか歩かない、という方も、ぜひこの季節に歩いてみるのはいかがでしょうか?

三俣山は4つの峰があり、峰の間に形成された大鍋・小鍋という窪地をとりまく紅葉が人気です。山の側面には苔が多く、その周りの紅葉も迫力があります。長者原から三俣山の大自然のお楽しみをするには、往復約1時間程度。長者原～三俣山(すがもり道)までは、落石多発のため、通行自粛区間となっています。



02.三俣山

03.黒岳

黒岳は、高塚山・天狗岩・前岳などの総称です。高塚山・天狗岩までは、男池(おおいけ)から往復約7時間ほど。男池周辺は原生林帯で、ブナやオシロイ、シラキなどが多く見られ、中でもケヤキの大木には驚かされます。登山口から風穴までは、原生林の紅葉を楽しむことができます。風穴から山頂までは急登を登山口へ。天狗岩山頂からは、大船山や平治岳を違う角度から見る事ができます。山頂を目指すさき、男池周辺へくじゅうの秋をお楽しみください。

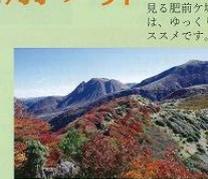


天狗岩山頂付近から、大船山と平治岳を望む。ここは山頂標識として、大きな岩に天狗岩と書かれています。

原生林帯の中、上を登ると、色も形も様々な葉っぱで埋め尽くされています。



06.扇ヶ鼻



牧ノ戸から約30分歩き、香掛山山頂へ。ここから見る三俣山は、長者原から見る三俣山とは、また違った姿容です。

扇ヶ鼻分岐の手前まで行くと、聖生山の西側斜面の紅葉がみられます。

扇ヶ鼻から肥前ヶ鼻の斜面。現在、肥前ヶ鼻は養生保護のため登山禁止ですが、扇ヶ鼻からはこんなに綺麗な景色がみられます。

くじゅうの秋が やってくる。

04.暮雨の滝

くじゅうの秋は10月中旬から始まります。標高が高くなるにつれて、11月の始めから、紅葉は標高の低い長者原九郎滝のあたりで、いきなり、ハダクエデやコナクエデ、黄色のクロモジ、赤色のトウゲツツジ、真っ赤なオレゴンアザミ、黄色のトウゲツツジ、真っ赤なオレゴンアザミなど、自然の色は様々。紅葉しないアゼなどの緑が混ざると、より一層味わいは、深みと見えてきます。また、秋を深しにできる時、紅葉した葉など、自然の落とし物もとても綺麗です。

吉野登山口から片道約1時間歩いたところにある滝。ここでは、秋は紅葉、冬は凍結する姿を見る事ができます。光が差し込む時間帯に行くと、より一層キレイ。また、ここから1時間ほど歩くと坊ガツルに出ます。いつも長者原から坊ガツルへ行く方は、こちらのルートで行ってみたいですか?



火口湖である御池(おおいけ)の周りは、紅葉するとこんな姿に、池に写った紅葉も、また一味あっていいですよ。

坊ガツル経由のルートでは、途中の段原(だんげん)からの紅葉も見ごたえがあります。

吉野登山口からは、スキの草原が広がり、途中牛とすれ違うことも。

山頂にある御池(おおいけ)の周りの紅葉は、とても人気のあるスポットです。長者原から坊ガツル経由で、往復約7時間。坊ガツルから、法華院山頂へ。往復約7時間。昨年年度から田村の登山バスも、運行中です(レンタルツアー・池沼間)。

05.大船山

山頂にある御池(おおいけ)の周りの紅葉は、とても人気のあるスポットです。長者原から坊ガツル経由で、往復約7時間。坊ガツルから、法華院山頂へ。往復約7時間。昨年年度から田村の登山バスも、運行中です(レンタルツアー・池沼間)。

山頂まで往復約1時間半程度で行くことができます。(事前予約制、予約は利用日の2日前17:00まで、問い合わせは、竹市町観光ツーリズム協会までTEL:0974-76-1610 受付時間:8:30~17:00)

山頂にある御池(おおいけ)の周りの紅葉は、とても人気のあるスポットです。長者原から坊ガツル経由で、往復約7時間。坊ガツルから、法華院山頂へ。往復約7時間。昨年年度から田村の登山バスも、運行中です(レンタルツアー・池沼間)。

2. 環境教育活動

KODOMO ラムサール継続事業「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」

- ・平成 27 年度にくじゅう地域で開催された KODOMO ラムサールをきっかけに、地元の小中学生で結成された、自然保護活動グループ（現在メンバーは 6 名）。
- ・子どもが主体となった活動グループを目標とし、子どもたち自身で活動を計画・実行・振り返りを行う。その活動のサポートを、当協議会が行った。
- ・今年度は、タデ原のことを知る一貫として、タデ原を違う角度から観察する活動やオオハンゴンソウの駆除活動、野焼きの見学や草寄せ作業、センサーカメラを設置し、動物の観察などを行った。他にも周知のためのキッズガイド及び新聞作り、他湿地との交流を目的とした※KODOMO ラムサール in 北海道浜頓別への参加や、佐賀県東よか干潟との交流会などの活動を行った。 ※次ページに詳細記載
- ・来年度は年間予定をたてた上で活動に取り組んでいく。（頻度：2 カ月に 1 回程度。キッズガイドなど要望に応じて随時対応していく。）

平成 28 年度 「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」活動一覧

開催日		概要	8月19日		金	キッズガイド(依頼)
3月27日	日	野焼き見学	9月3日	土		広報、新聞作り
5月7日	土	タデ原湿原外周散策～春編～	9月22日	木・祝		九重の自然を守る会観察会参加
5月11日	水	会議(今後の活動について、目標等)	10月1日	土		タデ原湿原外周散策～秋編～
6月4日	土	タデ原湿原観察(キッズガイドに向けて)	10月12日	水		KODOMOLラムサール報告会in飯田小学校
6月8日	水	会議(キッズガイドのチラシ作り)	10月19日	水		新聞配り
7月3日	土	オオハンゴンソウ駆除活動(飯田高原まちづくり協議会)	11月20日	日		タデ原湿原輪地切り(草寄せ)
7月6日	水	会議(周辺施設にチラシ配布、ガイドに向けて)	11月27日	日		佐賀県東よか干潟交流会
7月9日	土	キッズガイド予行練習	12月17日	土		センサーカメラ設置
7月22日	土	キッズガイド予行練習	1月28日	土		センサーカメラ回収、来年度の活動について
7月29日	金	キッズガイド本番	12月22日	木		活動紹介in飯田小学校
8月5日～7日	金～日	KODOMOLラムサールin浜頓別	2月25日	土		センサーカメラ、飯田高原文化祭練習
8月18日	木	会議(KODOMOLラムサール報告、今後の活動について)	3月12日	日		飯田高原文化祭



タデ原湿原外周散策



キッズガイドの様子



佐賀県東よか干潟交流会（野鳥観察風景）



センサーカメラ設置の様子

KODOMO ラムサール湿地交流 in 浜頓別

- ・ KODOMO ラムサールとは、ラムサールセンター（東京）が主催し、全国のラムサール条約登録湿地で進めている子供たちの環境教育・交流事業であり、これまでに 20 湿地で 28 回 1300 人以上の子どもが参加して大きな成果をあげてきたプログラムである。（昨年度は「くじゅう坊ガツル・タデ原湿原」で開催）
- ・ 今年度は、北海道浜頓別町にある日本最北端のラムサール条約登録湿地「クッチャロ湖」を中心に、2 泊 3 日でプログラムが行われ、チームタデ原から 4 名のメンバーを派遣した。
- ・ 全国各地から総勢 32 名の子どもが集まり、お互いの湿地紹介や浜頓別町の各地でフィールドワークを行い、KODOMO 会議を通して浜頓別町の「6 つの宝」を探した。
- ・ 参加したメンバーは、それぞれ違う班だったが、班の中でも積極的に発言する姿や、班のメンバーとすぐに打ち解けていた。



ベニヤ原生花園散策



頓別漁港見学



牧場見学



クッチャロ湖にてカヌー体験



班別会議の様子



完成したポスターと集合写真

飯田小学校総合学習

○7月14日 3年生7名

- ・目的は「地域の自然自慢」としてタデ原湿原を知ることであった。解説の他、タデ原を散策する際、白地図を持ってもらい、発見したものを書き込むようにすることで、各自オリジナルのタデ原マップを作ってもらった。
- ・児童は別の授業で地図の勉強をしていたため、地図を用いた解説に興味をもっていた。また、質問時間では、タデ原の生き物についてだけでなく、ビジターセンターや木道についてなど幅広い視点からの質問があった。

○12月19日 5年生14名

- ・目的は、身近な環境問題を知るということで、タデ原湿原での一番の環境問題として、オオハンゴンソウなどの外来種問題を取り上げた。
- ・外来種がどのように侵入してきたのか、何が問題なのかを解説した後、実際にオオハンゴンソウの駆除を体験してもらった。
- ・児童は、実際に自分の家の周辺で見たことがあり、興味関心を持って取り組んでいた。



7月14日タデ原散策の様子



12月19日オオハンゴンソウ駆除体験の様子

飯田高原お宝探検隊との活動

- ・飯田公民館及び飯田地区青少年健全育成協議会主催の「飯田高原お宝探検隊」の活動実施に、運営委員として協力した。（詳細は「平成28年度飯田高原お宝探検隊活動報告書」を参照）



「おにぎり山でデイキャンプ」の様子



「大豆植え」の様子

平成28年度 飯田高原お宝探検隊活動一覧

開催日		概要	参加者数
5月9日	土	一目山、泉水山ろくでデイキャンプ！	16
8月3日	月	豊後渡で川あそび	15
9月26日	土	あげたへえ～さげたへえ～須久保地区	14
12月25日	金	もぐらうちづくり	12
1月16日	土	も～ぐらうちは～奥郷夕ヨ～	9

山の日制定記念 夏山フェスタ in 福岡 2016 (主催：夏山フェスタ in 福岡 2016 実行委員会)

- ・6月25日(土)に福岡市で開催されたイベントに、セミナーの講師として参加した。セミナー参加者は約150名(主催者情報)。
- ・「くじゅうの美しい植物たち」と題して、くじゅうの植物をテーマに1時間程度の講演を行った。
- ・講演内容に対し、一般参加者からは、「植物の生態についての説明が興味深かった、くじゅうでの自然保護活動に参加するにはどうしたら良いか」等の意見が聞かれた。今回のイベントでは、登山に関するブース出展や専門家によるセミナーが多数あり、山に対して興味を持つ方が多く来場していたため、多くの方に植物を通してくじゅうに興味を持ってもらうことができた。今後もこのような機会があれば積極的に参加していきたい。



講演中の様子



講演会場の様子

NACS-J 市民カレッジ シリーズ 43 (主催：日本自然保護協会)

- ・11月23日(水・祝)に大分市で開催されたNACS-J市民カレッジ「改めて考えて一緒に行動しよう！生物多様性の伝え方、守り方 in 大分」(主催日本自然保護協会)に、ワークショップのファシリテーターとして協力した。
- ・生物多様性の普及啓発に必要なことは何かを考えるワークショップを実施し、生物多様性について伝えたい相手によって、どのような伝え方をしたら効果的か、会場の参加者全員で考えた。

生物多様性の主流化を目指す「市民のための生物多様性全国前講座」プロジェクト
NACS-J市民カレッジ シリーズ ●●
**改めて考えて一緒に行動しよう！
生物多様性の伝え方、守り方
in 大分**

「生物多様性」世界でも日本でも、需要に市民団体、企業や自治体による言葉や考え方が広がってきています。しかし大切なのは分かれれば、なかなか伝えきれないこの言葉。本セミナーでは、国内外の最新事例をヒントにしながら、「誰に、どう伝え、どんなコラボレーションを創り出せるか」という参加者全員で考えていただきます。

第1部	<p>〈基調講演〉 「改めて考えよう 生物多様性の伝え方、守り方」 13:00- 14:00 講師：道峯 桂平 (どうけてっぺい) 公益財団法人日本自然保護協会 監査総務 総務部長、自然保護推進部 (NACS-J) 日本赤十字社 事務局長</p>
第2部	<p>〈ワークショップ〉 「一緒に行動しよう 生物多様性の伝え方、守り方」 14:00- 16:30 ファシリテーター：藤村 英夫 (たねむらえいぢい) 阿蘇くじゅう国立公園・奥阿蘇ビジターセンター</p>

●主催：公益財団法人 日本自然保護協会
●共催：大分県自然観察連絡協議会
●後援：大分県、九重町
●定員：50名(先着順)
●参加費：無料

2016年11月23日(祝)
12:30 受付開始
13:00 ~ 16:30
【会場】大分県コンシルホール
300会議室
〒870-0021 大分県大分市南河内1-5-38
交通… 大分駅西口下車 徒歩5分
バス… 大分駅西口下車 徒歩5分

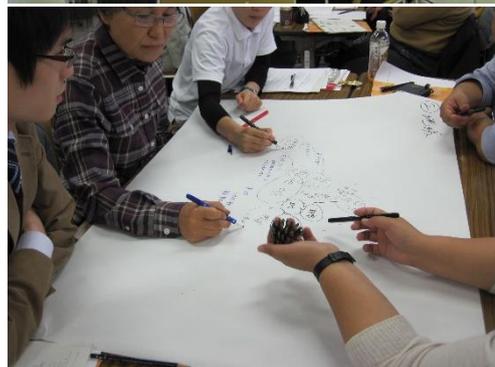
【申込先】

以下WEBフォームよりお申込みください。
または、お電話・E-mailでもお名前、Q所属、
③メールアドレス、⑤会員が否か(個人会員のかたは会員番号)をお知らせください。

<申込フォーム> goo.gl/hIQE4a
<TEL> 03-3553-4101
<E-mail> n-college@nacsj.or.jp
日本自然保護協会 (NACS-J) Nカレッジ担当

このプロジェクトはトヨタ自動車株式会社のトヨタ環境活動助成プログラムの助成を受けて実施しています。

自然を守る、未来をのぞく、
日本自然保護協会
The Japanese Conservation Society



ワークショップの様子

Ⅲ. 自然環境保全・調査活動

1. 自然環境保全活動

(1) オオハンゴンソウの駆除活動

くじゅう地区管理運営協議会の会員等と連携しながら、主に夏季期間中に数回、タデ原湿原周辺のオオハンゴンソウの駆除活動を実施した。



(2) 美化清掃活動

自然公園クリーン作戦等に協力し、美化意識の普及啓発を行ったほか、随時、長者原登山口や牧ノ戸峠登山口周辺のゴミ拾い活動を行った。

(3) 野焼き活動

飯田高原野焼き実行委員会に協力し、くじゅう地域の野焼き活動を支援した。



(4) 九重町生物多様性保全対策協議会

九重町の生物多様性保全対策協議会に委員として参加し、九重町生物多様性戦略づくりに参画したほか、九重町生物多様性シンポジウムの開催に協力した。



2. 調査活動

(1) 環境省グリーンワーカー事業（タデ原湿原上流部オオハンゴンソウ生育調査業務）

九州地方環境事務所からの受託事業（グリーンワーカー事業）として、「タデ原湿原上流部オオハンゴンソウ生育調査業務」を行った。（詳細は、「平成 28 年度グリーンワーカー事業報告書」参照）



(2) モニタリングサイト 1000 里地調査

- ・環境省の「モニタリングサイト 1000 里地調査 植物相」にタデ原を登録し（調査主体：九重の自然を守る会）、平成 25 年度～平成 29 年度（5 年間）まで継続して調査を行う。平成 28 年度の調査実施回数は 9 回（3～11 月に毎月 1 回実施）。
- ・調査の事務局はビジターセンター職員が行い、調査の前後には毎回、職員によるレクチャーを行った。また、調査の様子を館内に展示することで、一般利用者にも活動内容を知ってもらうように努めた。
- ・タデ原調査地でのモニタリング種数は 224 種^(※)であり、そのうち環境省レッドデータ掲載種は 11 種、大分県レッドデータ掲載種は 31 種（ヒメユリ、ヒゴタイ、サクラソウ、キスミレ等）、特定外来生物は 1 種（オオハンゴンソウ）であった。（※）イネ科、カヤツリグサ科、イグサ科を除く種子植物種数



(3) 長者原地区植物保全協議会

大分県のやまなみハイウェイ拡幅工事に伴う、長者原地区植物保全協議会に委員として参加し、やまなみハイウェイ沿線の植物相のモニタリング調査及び、工事方法について検討する会議に参加した。



IV. 登山道等管理活動

1. 登山道保全活動

- ・平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の影響による、登山道の状況把握を他機関と連携して行い、フェイスブックや関係機関への一斉メール送信等で、積極的な情報発信に努めた。
- ・玖珠美山高校 3 年生の卒業記念として、くじゅう地区管理運営協議会会員と協力し、牧ノ戸峠～黒岩山間の登山道保全整備活動を行った。
- ・登山道の老朽化している道標について、新たに 3 基（坊ガツル・平治岳・大船山分岐、すがもり・坊原分岐、涌蓋山登り口）の補修・交換を行った。
- ・くじゅうの自然に感謝する日には、九重の自然を守る会主催の、吉部登山口～暮雨の滝登山道整備に協力した。

くじゅうファンクラブ（阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター Aso-Kuju National Park）
作成者: visitor@oot-net.ne.jp | 2016年5月1日

登山道情報
くじゅう連山の登山道について、登山者や関係機関の方々から、危険なルートについての情報提供をいただきました。

・長者原登山口～湧蓋守城
玖珠山道終点付近で、かなり大きい落石があり危険。今後も状況によっては、落石の危険性あり。

・寺川登山口～久住山
登山道が崩壊している箇所があり、大変危険。
・沢水登山口～稲里山分岐（本山登山道）
鳴子山分岐の手前で、直径10m以上の岩が落石中のため、大変危険。また、出水付近でも土砂崩れが発生し、危険。

以上、事故防止に役立ててください。
なお、問い合わせの多い牧ノ戸峠～久住山線については、登山道の一部亀裂があるものの、現在のところ登山に支障はないとのことですが、ただし季節も経っていますので、自己の判断で登山し、十分に気を付けて、危険を感じたときは即座に引き返すようにしてください。
(写真は玖珠山道終点付近の落石)



熊本地震による登山道情報を発信



玖珠美山高校 3 年生との
登山道保全整備活動の様子



くじゅうの自然に感謝する日
吉部登山口～暮雨の滝の登山道整備の様子

2. 長者原周辺の美化清掃活動

(1) 清掃業務

- ・長者原公衆トイレについて、職員による日常清掃をより強化して行うとともに、昨年に引き続きトイレ清掃ボランティアを入れ、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。また、消臭剤を各便器に設置するなど、悪臭の改善に努めた。
- ・年 1 回、清掃業者による特別清掃（便器のやすりがけ、スケールの除去等）を実施した。



(2) 園地管理業務等

- ・長者原園地及びその周辺においては、ゴミ拾い等清掃の他、管理者である環境省等による維持管理を補助する形で、駐車場の植栽の剪定や草取り、芝刈り作業を随時実施した。また、タデ原の自然歩道脇の草刈りを随時実施した。
- ・長者原園地周辺の枯葉の清掃も行った。
- ・牧ノ戸峠駐車場および登山口においては、大分県による管理を補助する形で、随時ゴミ拾いを行った。



(3) タデ原湿原木道の保守業務

- ・3月末に実施されるタデ原の野焼きに備え、タデ原湿原木道が延焼しないよう、野焼きの実施前に木道の周囲の防火線切りを行った。



V. その他

1. くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度の創設

今も噴煙を上げ続ける活火山と、雄大な草原や落葉樹林の四季が織りなす美しい「くじゅう」。
希少な動植物が数多く生息し、1934(昭和9)年に国立公園に指定されています。
この貴重な自然が残る美しい「くじゅう」を、これから先もずっと受け継いでいくために—。
多くの方々の会費・寄付によって、くじゅうファンクラブの取り組みは支えられています。

皆さまのご支援でこんな活動をしています

教育・普及啓発活動

長者原ビジターセンターを拠点として、利用案内や自然体験の促進、地域と連携した環境教育、自然情報発信などを行います。



タデ原の自然観察会



地域での環境教育活動

自然環境保全・調査活動

草原の野焼きや外来種駆除、タデ原の植物相調査などの自然環境保全につながる活動を他団体と協力して行います。



タデ原の植物相調査



飯田高原の野焼き活動

登山道等維持管理活動

くじゅう連山の登山道の維持管理や補修、老朽化した道標の交換設置、長者原周辺の美化清掃などを行います。



登山道整備活動



公衆トイレの維持管理

阿蘇くじゅう国立公園 Aso-Kuju National Park

くじゅうファンクラブ

くじゅう地区管理運営協議会、通称「くじゅうファンクラブ」は、くじゅう地域で活動する民間事業者、自然保護団体、行政など、さまざまな団体で構成される団体です。私たちは、くじゅうにおける自然環境保全活動および適正な利用の推進を行い、くじゅう地域の発展に寄与していきます。

賛助会員・寄付のお願い

賛助会員になる

- (1) 個人会員 年会費 一口 3,000円
- (2) 団体会員 年会費 一口 10,000円

※会員の期間は、会費を納入された日から直近の3月末までです。

■賛助会員の方には、下記特典があります(※は希望者のみ)

- ・会員証の発行
- ・行事や研修の受入れ相談受付(団体会員のみ)
- *特典① 年4回のお便り送付(長者原だより+活動報告)
- *特典② オリジナル缶バッジ1個
- *特典③ 月1回のメールマガジン
- *特典④ くじゅうファンクラブホームページに団体名を掲載(団体会員のみ)
- ※特典内容は都合により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

お支払方法

会員・寄付募集パンフレットの振込用紙をご利用ください(パンフレットは長者原ビジターセンター等で配布しています。)



賛助会員・寄付についての詳細はホームページをご覧ください

くじゅうファンクラブでは、活動に賛同いただき、新たに賛助会員になってくださる個人・団体、およびご寄付を募集しています。
くじゅうファンクラブの活動に多くの皆さまのご支援をお願いいたします。

寄付をする

- (1) 一般寄付(お金による寄付)
- (2) お金によらない寄付(物品提供、広報協力等)

※(1)の寄付で10万円以上をお考えの方、ならびに(2)の寄付をお考えの方は、事前に下記事務局までご相談ください。

■ご寄付の金額に応じて下記御礼を送付します(希望者のみ)

- ① 「長者原だより」バックナンバー4期分【5千円以上】
- ② オリジナル缶バッジ1個【5千円以上】
- ③ くじゅうファンクラブホームページに個人名(もしくは団体名)掲載【1万円以上】
- ※御礼内容は都合により変更することがあります。あらかじめご了承ください。

くじゅうファンクラブ(くじゅう地区管理運営協議会)

【事務局】〒879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33 長者原ビジターセンター内
TEL & FAX 0973-79-2154

★活動報告やくじゅうの基本情報などはホームページで!
(H28年9月新設ページ)
<http://kujufanclub.com/>



★くじゅうの最新の自然情報などはフェイスブックで!
<https://ja-jp.facebook.com/choujabarvisitor/>



2. 職員研修実績

(1) KODOMO ラムサール湿地交流 in 浜頓別

開催日時：平成 28 年 8 月 4 日(木)～8 日(月) 参加者：鳥越

概要：北海道浜頓別町で開催された、全国のラムサール条約登録湿地の子供たちの交流事業である KODOMO ラムサールに、チームタデ原の子供たちの引率として参加したものの。

(2) 平成 28 年度刈払機取扱作業安全衛生教育

開催日時：平成 28 年 10 月 5 日(水) 参加者：鳥越、山下

概要：刈払い機の使用方や安全上の注意について学んだもの。

(3) 平成 28 年度ビジターセンター意見交換会

開催日時：平成 28 年 11 月 28 日(月)～29 日(火) 参加者：山下

概要：EPO 九州と各ビジターセンターの情報交換及び交流促進、熊本地震からの復興に向けた取り組みを共有することを目的とした、九州管内ビジターセンターの意見交換会に出席したもの

(4) 兵庫県立人と自然の博物館及び大阪市立自然史博物館視察研修、第 10 回生物多様性協働フォーラム「生物多様性のためのソーシャルデザイン」参加

開催日時：平成 28 年 12 月 2 日(金)～5 日(月) 参加者：種村

概要：関西圏の自然史博物館の展示の視察研修と、生物多様性フォーラムに参加したもの。生物多様性を広めていくために、どのように多様な主体の連携をすすめていくかについて学んだ。

(5) 九十九島ビジターセンター、たびら昆虫館視察研修

開催日時：平成 29 年 2 月 8 日(水)～9 日(木) 参加者：種村

概要：九州管内で最も来館者の多い九十九島ビジターセンター及び、平戸市のたびら昆虫館の展示及び運営手法の視察研修を行ったもの。地域の環境保全のための事業展開について学んだ。

(6) 島原半島ビジターセンター視察研修（雲仙お山の情報館、諏訪の池ビジターセンター、平成新山ネイチャーセンター

開催日時：平成 29 年 3 月 7 日(火)～8 日(水) 参加者：鳥越、山下

概要：島原半島にある 3 つのビジターセンターの展示及び事業展開の視察研修を行ったもの。

「登山届を忘れずに」

九重町 計画の重要性説明

九重町牧ノ戸登山口で11日、登山客にマナー向上な「登山ミニレクチャー」があった。



登山届の書き方などを説明した11日、九重町の牧ノ戸登山口

環境省長者原ビジターセンターを運営する「くじゅう地区管理運営協議会」の主催。同センターや町職員らが登山客に対して、服装への注意や登山計画の重要性を説明。「遭難時は登山届が唯一の手掛かりとなる。必ず記入して入山を」などと呼び掛けた。

「くじゅうネイチャーガイドクラブ」の増田啓次代表(57)は「登山届は登山計画を仲間と共有する目的もある。自然が相手ということを忘れず、十分な装備をしてほしい」と話した。

大分合同新聞（朝刊）

平成 28 年 6 月 12 日（日）

山歩きの知識 基本から



地図の見方を習う参加者=9日、九重町田野

九重町長者原で開講 計3回

九重町田野の環境省長者原ビジターセンターで9日、登山イベント「実践！もっと楽しい山歩き」が始まった。9月まで計3回の講座がある。

阿蘇くじゅう国立公園を知ってもらい、登山意識の向上などを図るのが目的。同センターを運営するくじゅう地区管理運営協議会が主催した。

初回は4人が参加。くじゅうネイチャーガイドクラブの増田啓次代表(57)が講師を務めた。

「初めての山歩き」をテーマとした座学があり、登山中の

注意点や歩き方などを学んだ。その後、くじゅう連山の長者原登山口～雨ヶ池を往復して登山を楽しんだ。

協議会は講座の参加者を募集している。2回目は8月27日、最終回は9月10日。各回とも座学とフィールドワークがある。各回の1週間前まで応募が可能。

問い合わせは同センター(☎0973・79・2154)へ。

大分合同新聞（朝刊）

平成 28 年 7 月 10 日（月）

タデ原博士初仕事

九重町飯田地区の児童生徒6人が29日、同町田野のラムサール条約に登録されているタデ原湿原でガイドに初挑戦した。昨年11月、同湿原を中心に飯田高原の自然を守り、伝えるを目的に結成した「チームタデ原」のメンバーら、観光客とともに木道や散策しながら花やくじゅう連山などを紹介、「上手なガイド」一まるで博士のまじりと好評だった。

メンバーは山本麻結さん(12)のえ緑陽中1年、手崎結衣さん(11)飯田小学校6年、音成穂華さん(10)同5年、矢方里奈さん(9)同5年、山本結貴さん(9)鷺頭強志さん(9)以上、同4年の女子6人。

九重・飯田の児童生徒6人ガイド



湿原を案内する「チームタデ原」メンバー＝29日、九重町田野

湿原のポイント紹介

ガイドはメンバーが白らう連山の名前を学び、志願して実現。今春から週7月に入つて、夏のリーダーガイドをする予定。(白居史)

このガイドは、湿原を歩ける長者原ビジターセンターに「タデ」を張ったり、同センターのフレイッシュアップを通して告知してきた。

この日、午前9時の湿原散策には14人が参加。メンバーは3班に分かれて、北東側の木道「タデ原絶景コース」を案内。クイズを織り交ぜながら、魚や花の名前、湿原の概略などを説明した。

西山薫吉さん(7)福岡市は「植物が知らないことを知ることができた、とても勉強していて驚いた」と感心した様子。メンバーの山本麻結さん(12)「お手伝いすることができて、これから湿原にすむ木や鳥の山も増やしていきたい」と話していた。

大分合同新聞（朝刊）

平成 28 年 7 月 30 日（土）

「チームタデ原」が湿原ガイド

九重町の小中学生グループ 初イベント

九重町の小中学生でつくる自然保護活動グループ「チームタデ原」が7月29日、同町・飯田高原のタデ原湿原をガイドし、その自然を紹介するイベントを開いた＝写真。「地域の宝・タデ原湿原を守ろう」と結成したチームにとって初めての試み。子供たちは懸命に湿原の素晴らしさを紹介した。

「チームタデ原」は昨年秋、同町で湿原の大切さを考えるイベント「KODOMOラムサール」が開かれたのをきっかけに結成。長者原ビジターセンターなどの協力を得ながら、これまでに地域の文化祭での活動発表、野焼き見学、自然観察などを行ってきた。



今回のイベントは「キッズガイド 夏のタデ原を歩こう」と銘打って一般の人向けに企画。地元の小中学生6人が約20人の参加者を案内。子どもたちは途中、湿原の動植物に関するクイズを出すなどしながら約1時間、湿原を歩いた。ここのえ緑陽中1年、山本麻結さん(12)は「説明するのは思ったより大変だったけど、参加した人に教えてもらうこともあって楽しかった」と話した。

西日本新聞

平成 28 年 8 月 2 日（火）

オオハンゴンソウの花を刈り取る参加者＝九重町田野



2年ぶり2回目。両社の大分支店から約40人が参加。九重の自然を守る会や環境省くじゅう自然保護官事務所、九重ふるさと自然学校のスタッフが指導した。

オオハンゴンソウの根、花を刈り取り駆除

九重のタテ原湿原で

MS&ADインシユアラ
ンズグループ（本社・東京都）の三井住友海上火災保険 あいおいニッセイ同和損保は11日、ラムサール条約に登録されている九重町田野のタテ原湿原で、外来植物駆除作業をした。

グループは2010年度から、ラムサール条約登録地を中心とした水辺の環境保全活動を展開している。同湿原での活動は

三井住友海上の細川英男大分支店長が「環境について学びながら作業しましょう」とあいさつ。同湿原を散策後、特定外来生物に指定されているオオハンゴンソウを駆除した。

参加者は2班に分かれ、オオハンゴンソウを根っこから引き抜いたり、花を刈り取った。オオハンゴンソウは約1メートルの根からも再生するなど生命力が極めて高く、ヒメユリやヒゴタイなど希少植物への悪影響が懸念されている。

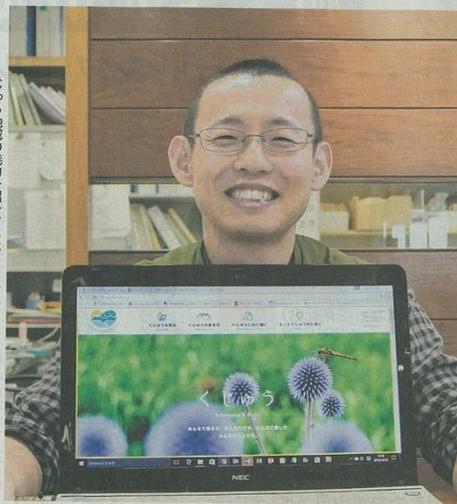
大分合同新聞（朝刊）

平成 28 年 9 月 13 日（火）

くじゅうファンクラブ

国立公園や登山道、お薦めスポット

山の魅力HPで紹介



くじゅう地域の魅力を紹介するホームページの公開日、九重町田野

くじゅうファンクラブ（正式名称くじゅう地区管理運営協議会）は、くじゅう地域の魅力や活動を紹介するホームページ（HP）を開設した。紅葉時季を間近に控え、「さらさらにくじゅうの自然を楽しんでもらえれば」と同クラブ。

クラブは1983年発足。現在、地元自治体や周辺施設など35団体の正会員で構成している。拠点施設である長者原ビジターセンターの管理運営や、ラムサール条約に登録されているタテ原湿原の野焼き活動など、公園内の自然環境保護

や普及活動をしている。HPは9月末に開設した。クラブの活動の他、阿蘇くじゅう国立公園やくじゅう連山への各登山道、周辺のお薦めスポットを紹介。登山のマナーやルール、関係機関の連絡先も掲載している。「くじゅうを知らない人も、もっと知りたい人にも分かりやすく魅力を紹介できるよう心がけた」と種村英大事務局長が話す。クラブは自然保護活動の活性化を図るため、一般の賛助会員や寄付を募集している。会員にはメールアドレスの配信や会員証の発行、寄付者には金額に応じてオリジナル缶バッジなどの特典がある。ビジターセンターや周辺ホテル・旅館などに置いてある申込用紙やホームページなどから申込し込める。問い合わせは同センター（☎0973・79・2154）へ。（白石宗史）

大分合同新聞（朝刊）

平成 28 年 10 月 31 日（月）

十分な計画立ててくじゅう連山登山者にマナー向上を呼び掛け

環境省長者原レシターセンターを運営するくじゅう地区管理運営協議会は10月30日、くじゅう連山の牧ノ戸峠登山口で登山者にマナー



登山届の書き方などを説明

センター職員、玖珠署員ら10人が参加。紅葉シーズンを迎えたくじゅう連山へ向かう登山者に服装点検や登山届の提出、ごみの持ち帰りなどを呼び掛け開いた。

センターの山下由貴子自然解説員(62)は「自分の体力を過信せず、十分な計画を立てて、紅葉に染まったくじゅうの山を楽しんでほしい」と話していた。

大分合同新聞(朝刊)
平成 28 年 11 月 1 日 (火)

玖珠美山高生

玖珠町の玖珠美山高校(野尻明敏校長)地域産業科3年生27人が、卒業記念の一環で、くじゅう連山の登山道を整備した。木材やスコップなどを背負って山に入り、修復作業に汗を流した。

卒業前に登山道整備

「くじゅう連山楽しんで」

黒岩山麓のあずまやで開いた。黒岩山麓のあずまやで開いた。指導したのは同省長者原自然保護官事務所の中村ピシターセンターを運営する仁自然保護官(36)と、九重くじゅう地区管理運営協会の自然を守る会の高橋裕二(66)があいさつし、まよから黒岩山へ続く登山

道約500メートルを5班に分かれて整備した。傾斜の厳しい箇所や雨などで道が崩れて歩きにくくなっている部分に木材を打ち込み、土のうや石を敷き詰めて踏み場を固めた。

くじゅう連山には、紅葉シーズンに特に多くの登山者が訪れるが、集中豪雨の発生などで登山道の浸食が進んでいるという。高橋副会長は「地元を離れても、この作業を時々思い出してほしい」、野口莉沙さん(19)は「玖珠町稼働は「木を打ち込むのがきつくて大変だった。これからも利用者が安全に楽しく登山をしてもらえれば」と話していた。(白石宗史) 写真は登山道に木材を打ち込む生徒(九重町湯坪)

大分合同新聞(朝刊)
平成 28 年 11 月 13 日(日)

4. 地域の概要

阿蘇くじゅう国立公園は、九州のほぼ中央に位置し、周囲約 100km に及ぶ世界最大級の阿蘇のカルデラ地形と、その北東部に連なるくじゅう火山群、由布岳、鶴見岳からなる、火山地形と草原景観が特徴的な国立公園である。その中でも、くじゅう地域は「九州の屋根」とも呼ばれ、1700 m 級の山々が連なり、初夏はミヤマキリシマの花、秋は紅葉で山々が彩られる。また、山間の坊ガツル湿原・タデ原湿原は、国際的に重要な湿地として、ラムサール条約に登録されている。山麓の飯田高原・久住高原などの広大な高原と並び、湿地性・草原性の多様な草花や野鳥・昆虫など、多くの動植物でにぎわう場所となっている。

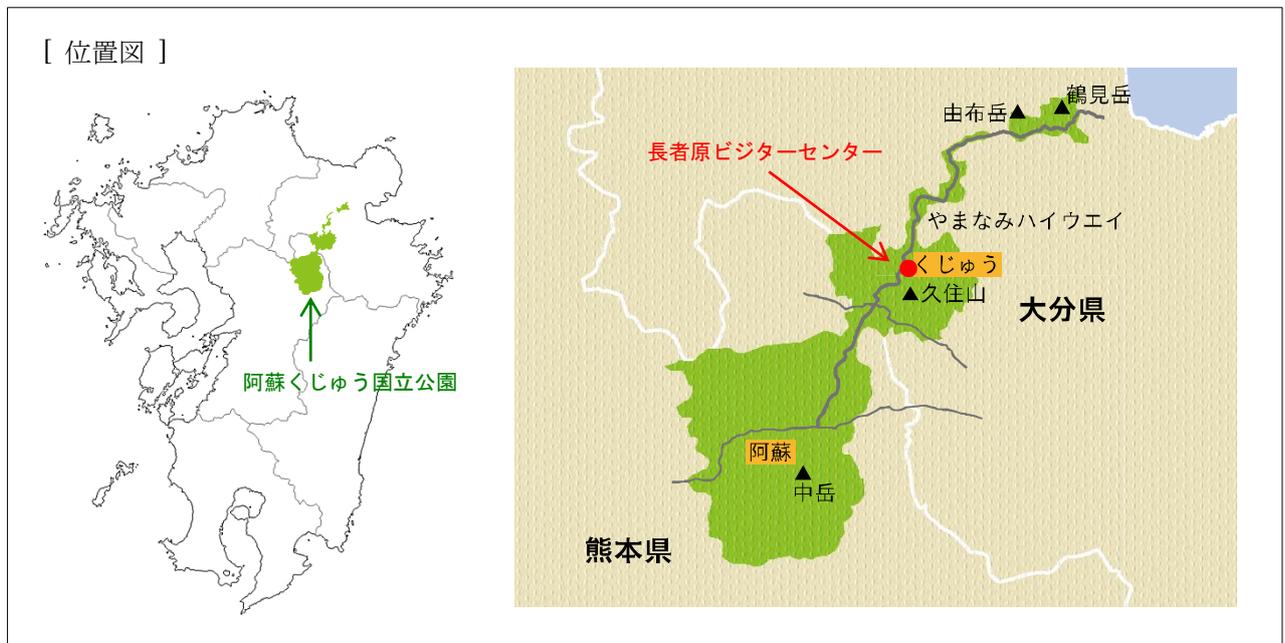
長者原ビジターセンターは、通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿いの大分県九重町長者原地区にあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの裏側には、タデ原湿原が広がり、設置された木道からは、四季折々の自然を肌で感じることができる。



くじゅう連山（ミヤマキリシマ開花期）



タデ原湿原



阿蘇くじゅう国立公園

指定：1934年（昭和9年）

公園面積：72,678ha（くじゅう地域 18,310 ha）

5. 運営体制

事務局

九重町役場 商工観光・自然環境課

職員紹介

種村英大（たねむらえいだい） 事務局長兼長者原ビジターセンター長

村松優子（むらまつゆうこ） 自然解説員

鳥越 遥（とりごえはるか） 自然解説員

山下由貴子（やましたゆきこ） 自然解説員・国際化担当

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、九重の自然を守る会、大分県立社会教育総合センター九重青少年の家、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、釜ノ口温泉観光協会、久住高原観光協会、学校法人福岡大学（ホテルやまなみ荘）、株式会社おおいた観光サービス（オーベルジュ・コスモス）、飯田高原観光株式会社（長者原ヘルスセンター）、やまなみ観光株式会社（レストハウスやまなみ）、有限会社みやま商店、寒の地獄株式会社（寒の地獄旅館）、有限会社星生温泉（九重星生ホテル）、株式会社まきのとコーポレーション（九重観光ホテル）、九重ヒュッテ、株式会社エルランチョ・グランデ、有限会社牧ノ戸峠レストハウス（牧ノ戸売店）、九重町飯田農業協同組合（飯田高原ドライブイン）、有限会社法華院温泉（法華院温泉山荘）、有限会社くじゅう倶楽部、九重森林公園株式会社（九重森林公園スキー場）、株式会社橋本建設、株式会社ア・マ・ファソン（オーベルジュ・ア・マ・ファソン）、株式会社星野リゾート（界 阿蘇）、飯田高原デザイン会議、一般財団法人セブン・イレブン記念財団（九重ふるさと自然学校）、NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部、有限会社吉武建設（くじゅうやまなみキャンプ村）、特定非営利活動法人くじゅうネイチャーガイドクラブ（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員（団体）

九州横断観光株式会社（朝日台レストハウス）、九州電力株式会社（八丁原発電所）、九州林産株式会社林業部、福岡県中学校体育連盟、福岡県高等学校体育連盟、山里の湯（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員（個人）

30名

くじゅう地区管理運営協議会

【事務局】九重町役場商工観光・自然環境課
大分県玖珠郡九重町大字後野上 8-1 九重町役場内

【事務所】長者原ビジターセンター
大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33

【電話】0973-79-2154

【ホームページ】<http://kujufanclub.com/>

発行 / 平成 29 年 3 月 31 日